



キャンプ道 執筆者

大募集



かわら版では、会員みなさんの活動を紹介する「キャンプ道」の執筆者を募集しています。

自然教室の運営や町内会のアウトドア企画など、あなたの取り組みをぜひお聞かせください！

文章にすることで、ご自身の活動をあらためて振り返る時間にもなり、関心のある方々へ活動が広がるきっかけにもなります！さらに、同じ思いを持つ仲間との新しい繋がりが生まれることもあります。

■応募の流れ

1. まず、事務局へご連絡ください
2. 事務局より正式に執筆を依頼いたします
3. 指定の期日までに原稿と写真をご提出ください

■原稿について

- ・内容 取り組んでいる事業・活動の紹介
- ・文字数 800字程度
- ・写真 2~4枚

**キャンプ道は会員一人ひとりの現場の声が主役です！
あなたの視点で活動の魅力を教えてください。**

2026 年度後援事業

- ・NPO 法人 North OUTDOOR Connect 野窓
【ういきゃん。】（6月）



- ・NPO 法人自然教育促進会
【アウトドアスクール】（通年）



かわら版バックナンバー

当協会の広報誌「かわら版」のバックナンバーを閲覧することができます！



ぜひ、Web ページよりご覧ください！

北海道キャンプ協会事務局

〒005-0862
 北海道札幌市南区滝野 106 番地
 NPO 法人ネイチャープログラムデザイン内
 TEL&FAX 011-596-9170
 メール hokkaido@camping.or.jp
 URL <https://hokkaidocamp.com/>

※事務局にスタッフは常駐しておりませんので、お急ぎの場合を除き、Eメールでご連絡いただくと幸いです。

発行：北海道キャンプ協会広報部 編集：長江 集子

Web ページ



Facebook



かわら版 北海道キャンプ協会

2026 年
3 月号

キャンプ道

「原風景・原体験となるような小さな積み重ねを」

小さな葉と小さな木は、大地に根を張り、水を吸い上げ、おひさまの光を浴び、時に雨や風に揺られながら、少しずつ大きく強く育っていきます。

「ちいさなはっぱちいさなき（通称ちいちい）」という自然教室の名前には、子どもたちが安心して自分を出し、信頼する大人たちに見守られながら、急がず比べず自分らしく、のびのび成長していける居場所であってほしいという想いを込めています。

ちいちいの親子自然体験教室は、5月から10月の〈みどりクラス〉と、11月から4月の〈ことりクラス〉の二本立てで、「食育×自然あそび×木育」を柱に活動しています。

季節に合わせて形を変えながら、一年を通して自然と関わる場づくりを大切にしています。

みどりクラスでは、旬の作物の収穫や調理、薪割りや火起こしなどの体験、草花や虫、生き物との出会いを楽しみながら、自然の中での遊びが広がっていきます。

ことりクラスでは、木の実や枝、葉などの自然素材を使ったクラフトを行い、形や手触り、特徴を生かした表現を楽しみます。同じものがひとつとしてない自然素材には、発見や工夫のきっかけがあらわれています。

木々と空とおひさまの色彩、急な風や雨、土の感触、季節ごとに変わる空気と匂い、作物の成長、自然物を暮らしに取り入れる工夫。五感を使い、自然を身体で感じながら、いきいきとした表情を見せる子どもたちと、その姿を見守る大人のまなざし。はしゃいだり、真剣になったり、感動したり。子どもと大人が共感し合える時間が流れます。

それぞれの中にある小さな種や芽が、やがて大きな葉や木へと成長したとき、ちいちいで小さな積み重ねが「あたたかく幸せな原風景・原体験」として思い出されることを願いながら、大地を耕すような活動をこれからも続けていきます。

キャンプインストラクターはまだ取得1年目、次はキャンプディレクター取得にも挑戦したいと思っています。

自然体験教室「ちいさなはっぱちいさなき（通称ちいちい）」 ちょこ（道場祥子）



北海道東北ブロック キャンプミーティング 2025

11月15日（土）～16日（日）、宮城県にて「北海道東北ブロック キャンプミーティング 2025」が開催されました。

1日目は、普段の「伝える側」という立場を離れ、一参加者としてキャンプソングやアイスブレーキングを学びました。今当たり前に身につけている技術や手法も、かつてはこうして学んだものだったなと改めて思い出しました。そんな初心を思い出し、「自分は今、しっかりと伝えることができているだろうか？」と自問する貴重な時間となりました。

夕食交流会では各地域・指導者の活動報告に花が咲き、とても楽しい時間を過ごしました。

2日目は、ホスピタリティやアイスブレーキング、倫理ガイドラインについての座学が行われ、対象者への指導や接し方をどう構築していくべきか、改めてその本質を確認することができました。

最後に、クマの出現により宿泊場所や研修会場、食事などの運営に大きな変更が生じた中でも、無事に開催し、多くの学びの機会を提供して下さった宮城県キャンプ協会の皆さまに、心より感謝申し上げます。

しょーちゃん（二杉寿志：一般財団法人おたる自然の村公社）



2025年度「あそびばざーる」報告

本年1月、札幌市青少年山の家主催事業「あそびばざーる」に3名のキャンプ協会員（と、やむなく諸事情により参加が叶わなかった1名の思いも胸に）が参加し、定山溪自然の村および秀岳荘のスタッフとともに来場者を出迎えました。

雲一つない快晴の下、会場設営に始まり、焚き火の管理やマッシュマロの配布、学生ボランティアとの協働、そして子どもたちと全力で雪遊びに取り組みました。本イベントは、今回で3回目を迎え、3回連続で来場している保護者の方からは、「来年もぜひやってください」とうれしいお言葉をいただきました。

携帯ゲーム機やスマートフォンの普及により、子どもたちの外遊びの機会は減少しています。日常生活においても効率化やコスト削減が進み、人と人が直接関わる場面は少なくなりつつあるように感じられます。そんな中自然体験活動では対象者とのコミュニケーションは不可欠であり、機械やロボットでは決して変わることのできないこの関係性こそが子どもたちの社会性を育むのだと、改めて実感しました。



ガースー（菅野 直之：地方公務員、札幌市勤務）



第65回旭川市PTA研究大会 登壇報告

「子どもと一緒にキャンプに行こう！～子どもと保護者のいい加減～」

令和7年11月9日（日）に、第65回旭川市PTA研究大会の第1部会において講師を務めてまいりました。当日は多くの保護者の皆様と、現代における自然体験の意義を深く考える貴重な時間となりました。分科会の内容の一部をご報告いたします。

現代社会の課題と自然体験の重要性

都市化やスマホの普及により、子どもたちが画面越しの「間接体験」で満足してしまう現状があります。

しかし、自然という非人工的な世界で五感を働かせることは、言葉を豊かにし、思いやりや人間関係能力を育むという科学的な根拠があります。また、北海道という土地柄、野生動物との共存において「正しい知識を持って正しく怖がる」姿勢を身につけることは非常に重要です。

キャンプに「特別な技術」は不要

キャンプと聞くと「道具や技術が必要」と身構える大人が多いですが、実は特別な技術は必要なのではないです。大切なのは成功をゴールとせず、不便さを工夫して「まずは一緒に楽しむ」という「いい加減（良い加減）」な気持ちです。

子どもには「失敗してもいいんだよ」と伝え、大人が手出しをして体験を奪うのではなく、最後まで完結させるようにしてください。また、自立とは「自分で考えて行動する力」に加え、「適度に依存する力（誰かを頼る力）」も必要です。「助けて」と言える環境を家庭や学校で作ることが心理的安全性の確保に繋がります。

効果的なコミュニケーションとバイアスへの注意

関わりの中で大切にしたいのがコミュニケーションの「具体性」です。「早く」ではなく「4時には」と伝え、怒りではなく「悲しい」と素直な感情を共有します。また、聞く際は「分析」や「アドバイス」に走る「リスニングブロック」を避け、心を寄せて聴く（傾聴）ことが基本です。

併せて、無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）にも注意が必要です。性別や年齢による役割の決めつけは子どもを苦しめます。言葉をかけた後、相手の心にどのような「後味」が残ったか。その一点に目を向けることが、バイアスを乗り越える鍵となります。

このように、自然の中で五感を働かせ、誰かと『助け・助けられる』経験は、やがて子どもたちの未来を支える確かな力になることでしょう。言葉の『後味』にまで心を配るような温かな関わりを、これからも協会員のみなさんと一緒に広めていければ幸いです。

ハット（下川原 清貴：NPO法人コミュニティワーク実践センター）

